

# 平成29年 9月 データから見た業界の動き

## ■ 概 況

平成29年9月の山梨県内の全業種のD I 値は、前年同月比では、売上高は26ポイント、収益状況は16ポイント、景況感は18ポイント改善、全世界の経済に影響を与えたリーマンショック(2008年9月)以降、本会の調査では、はじめて全てのD I 値がプラス(収益のみゼロ値)に転じた。

(※DI値の詳しいデータが残る2007年1月からも初)

前月比で比較すると売上高は8ポイント悪化したが、収益状況は4ポイント、景況感は14ポイント改善する結果となった。

業種別のD I 値を見てみると、製造業は、前年同月比では、売上高は35ポイント、収益状況は15ポイント、景況感は20ポイントといずれの項目も改善したが、前月比では売上高は25ポイント、収益状況は5ポイントの悪化となり、景況感は10ポイント改善する結果となった。鉄鋼・金属、一般機器等の製造業界は好調であり、今後、建設関連も年度後半の繁忙期に向かい、好転を期待するとの報告があった。

非製造業においては、前年同月比では売上高20ポイント、収益状況16ポイント、景況感は17ポイントそれぞれ改善した。前月比では売上高3ポイント、収益状況10ポイント、景況感17ポイントとすべての項目で改善が見られた。ジュエリー業界では、海外バイヤーから日本製品への需要が高まりから将来的に期待するとの明るい報告があった。

今後は、秋の行楽シーズンや年末の商戦期を控え、消費者マインドの上昇を期待する一方で、建設業を筆頭に来年以降はオリンピック開催に伴う大型の投資が縮小、2019年には消費税率のUPがされることとなっており、仕事量の減少による景気の先行きに不安を感じている事業者も多く、さらに人材の確保、人材の育成や事業承継を業界全体で取り組む必要性を訴える声も大きくなっている。

将来的な景気の悪化の状況の、中小企業者の経営力強化への取り組みを早急に行わなければならないと中央会では考えている。

## ■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

### ● 製 造 業

食料品(水産物加工)	ギフト関係、業務用食材は不調だが、おせち料理向けが好調であり売上が改善され、全体の売上では前年同月比で101.8%。
食料品(洋菓子製造)	自社製品は輸出向けが前年を上回ったが、専門店・量販店向けが落ち込み前年同月比98.7%。全体の売上は前年同月比102.4%と前年並みを維持。
食料品(パン・菓子製造業)	9月から繁忙期となるが人材の確保が難しく、外国人の派遣労働者を雇用して対応。
食料品(酒類製造業)	経済連携協定(EPA)締結で欧州産ワインの関税撤廃が行われることから、価格競争の激化が予想され、中小地場産ワイナリーは影響を憂慮。ワインの原料となるブドウの収穫が最盛期を迎え天候は好調だったため出来栄えに期待が高まる。

繊維・同製品（アパレル）	下請加工業者は加工賃の低下により低調、自社ブランドを持つ製造販売業者は販路の拡大により好調であるが、業界全体として大きな動きは無い。製造・販売共に、ターゲットを絞った戦略が必要だと感じている。
木材・木製品製造	大手プレカット工場の出す見積金額が材料・加工賃共に安価く、価格競争が激化。
窯業・土石（砂利）	骨材需要は緩やかに増加し、これから繁忙期に向かい期待が高まるが、先行きは不透明。
窯業・土石（山碎石）	製品出荷量の減少が続き、操業日数を減少させ製品製造を行わず設備や労働力の維持を図っている。この状況が継続するようであれば休業日を増加せざるを得ず、給料の減額に迫られることを懸念している。 隣接する神奈川・静岡県の公共工事が動き始めたが、県内動向は未だに動きが無く、先行きは不透明。
鉄鋼・金属	製造業全体として徐々に忙しくなっており売上高、収益状況は3%と緩やかに改善。
一般機器	業界として全体の景況感は改善していると思われる。
電気機器	人材不足から廃業した同業者がでている。官公需を受注した電気事業者が、県外業者から安価な既製部品を手配し、県内業者に対しては保守管理のみの発注が増えている。官公庁は県内企業からの調達増大を強く進めてもらいたい。
電気機器	航空機関連の取引は低水準で推移しており、10月受注分からはコストダウンが行われる。
宝飾（貴金属）	K10製品よりK18等の品位の高いものの人気が高まり、売上は前年同月比20%増加。

## ● 非製造業

卸売（紙製品）	中国の輸入規制から国内の古紙に過剰感がある。年末に向けて厳しい状況が懸念される。
卸売（ジュエリー）	海外（バンコク）の展示会は、これまでルビー・サファイア等の素材の購入が多く、製品を販売するところではないという認識だったが、日本製のジュエリーに興味を持つバイヤーが増え、今後の可能性に期待。
小売（石油）	9月に入り原油価格が上昇し、併せて卸価格も上昇した。小売市場に十分な転嫁が行えず利益につながらない。
宿泊業	秋の観光シーズンに入りシルバーウィークは来県者が増加した。ブドウ狩りの時期は終わるが、県内各地ではワインイベントが開催されるので、期待している。前年同月比で売上高、収益とも2～3%増加。
美容業	9月は新規4名の組合加入の申し込みがあったが、全体的に年々組合員数は減少している。
産業廃棄物処理	建設系の家屋解体が目立つが業界全体は低調。水銀含有廃棄物の処理については廃棄物処理法の改正が10月から改正されるため、施行後は注意深く動向を探っていく。
一般廃棄物処理	事業系一般廃棄物処理計画は市町村ごとの処理計画に隔たりがあり、取引単価に関してもまちまちである。取引によっては半値で行われる状況もあり、適正な処理が行われず正常な取引に支障をきたしている。

警 備 業	警備員の派遣要請は多いものの、警備員不足から充分に応えられない状況が続いている。人材の確保について企業や関係機関等が行っているが、成果が出ておらず、今後は警備料金の引上げ、警備員の処遇、職場環境の改善を行い、人材の定着を図る必要があると感じている。
建設業（総合）	9月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は17%、請負金額は22%それぞれ減少。今年度の累計では件数は8%、請負金額は16%減少。
建設業（型枠）	来年は仕事量の減少から工事単価の減少が予想される。
建設業（鉄構）	全体的に繁忙感はあるが、工期のずれ、材料調達の遅れから工程が滞るケースが見受けられる。稼働率100%の工場もあれば、手持量が1ヵ月未満や稼働率70%程度の工場もあり、企業格差が広がっている。
設備工事（電気工事）	組合会員の高齢化、工事量の減少、人材不足が課題。
設備工事（管設備）	業界として人材不足が課題である。住宅工事量の減少が続き、売上高では26.7%減少。
運輸（タクシー）	前年同月比で売上は微増。旅行者の乗客数が少なく業界は低調。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2016/9	2017/8	2017/9	2016/9	2017/8	2017/9	2016/9	2017/8	2017/9
売 上 高	-30	30	5	-7	10	13	-16	18	10
収 益 状 況	-20	0	-5	-13	-7	3	-16	-4	0
景 況 感	-15	-5	5	-10	-10	7	-12	-8	6

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) =D. I 値

